

## ACCESS 会報「SPEAKS OUT」(2000年)より抜粋

『広大な宇宙の果てまでを見通すほどの澄んだ目、まっすぐな強い意志、そして、地球の生命全体を考えるやさしさを持って、皆が住む地球環境を考え行動して欲しい』これは、私が2度目の宇宙飛行をした2000年2月に宇宙から日本の若い人々に送ったメッセージです。テレビ中継番組の中で無重力で浮かびそうになる手帳に書きとめた文を読み上げました。私は大学の助教授として教鞭をとっていた35歳時に宇宙飛行士になりました。日本人初のスペースシャトル飛行で、見るものも、触るものも、すべてが初めての中、必死にやり遂げた宇宙飛行。そして8年後、再びNASAのミッション・スペシャリストの資格を取り直してから臨んだ飛行。その後、訓練や宇宙体験を通じて蓄積された知恵を地球上に生かしたいと思い、日本科学未来館の館長として、人々の交流の場を作りました。

私も、人生の節目、節目にこの様に、新しい組織の新人になっています。日本の中、アメリカの中、地球の中の組織に在って、やはり常に持ち続けたいのが冒頭の認識です。「果てまでも見通すほどの澄んだ目」というのは、その人が持つ正直、誠意です。ある環境の中で、自分の持つ能力を精一杯尽くす。どうしても隠したくなる失敗もできるだけオープンにできる透明さ。お互いの情報開示の中での公正な競争を意味しています。

「まっすぐな強い意志」とは真摯な気持ちで堂々とした意見を持ち、それに責任を持つということです。時として、弱くなると組織の中に埋もれて、隠れて、責任を回避したくなります。そういうときこそ、その長が決めたことに不満を持ち、他者の足を引っ張ることになりがちです。一歩日本を出ると学歴や肩書きなど、しがみつ়く物はありません。個人の実直な意見と潔い責任感が本当に受け入れられます。私も、本来のプログラムに無く、実施は無理と言われた、宇宙授業を日本のために必要と思い、あらゆる人に説いて回りました。無重力に浮かぶ故郷のりんごを使ってのニュートン力学の授業は、私のほうが嬉しくなって心から微笑みました。

「地球全体の生命を考えるやさしさ」はもうお分かりかと思います。すべての人の行為が地球環境を変えているという認識です。92年に宇宙飛行をする直前に爆発したピナツボ火山の噴煙が2~3日もしないうちに地球全体を覆っているのを目の当たりにしました。一企業が出すゴミ、一台の車が出す排ガス。個人個人の活動が私達の環境に良い意味でも悪い意味でも影響している、と意識してから次に進むことによって、行動の仕方が変わってくるでしょう。この地球が私達人間にとってかけがいの無い「まほろば」なのですから。

毛利衛（日本科学未来館館長、宇宙飛行士）